

安 清



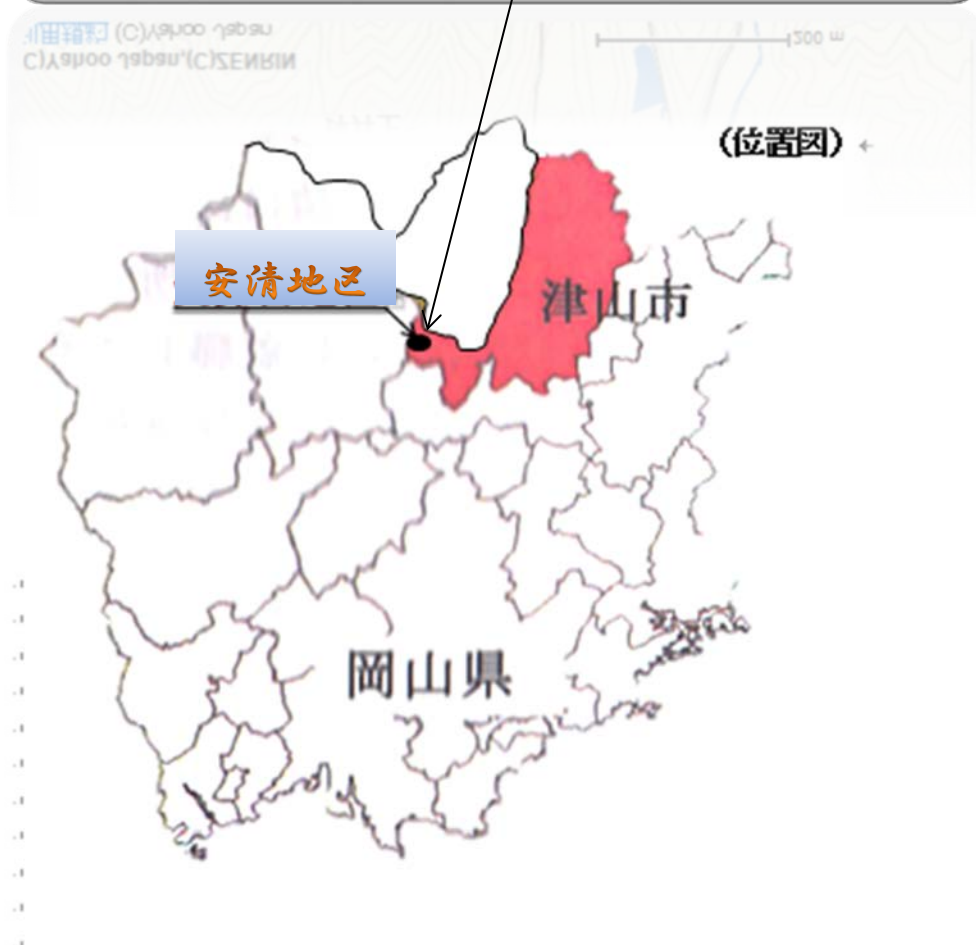
あ っ ち

こ っ ち

散 策

編集:小福田茂利

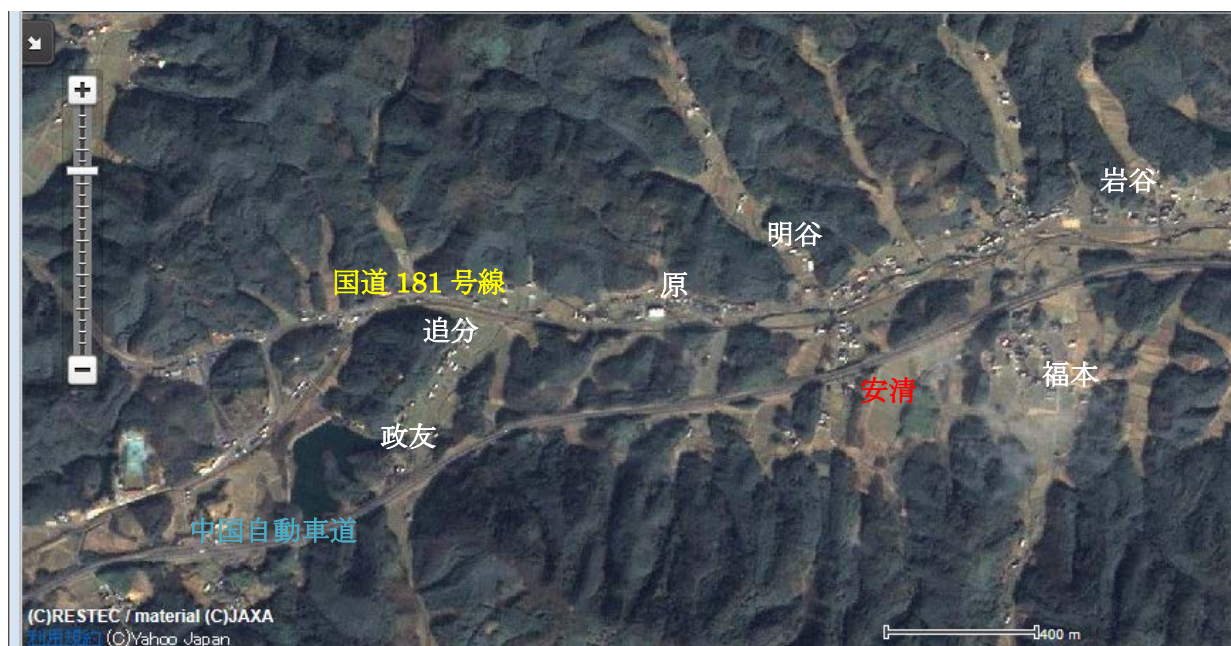
津山市坪井上字安清地区



上空から見た安清地区



上空からみた安清付近図





① 大師山（「阿弥陀如来安清の堂」跡地）

（旧四国八十八カ所霊場巡拝位置・81 番札所）

※弘法大師霊場 81 番札所、（昔は坪井上村の中心地であった。）

※ 安清部落の谷に沿って、西側を南北に位置している山を
大師山と呼んでいる。由来は、弘法大師霊場（久米・苫田
88 カ所 81 番札所）設置が、明治 22 年 7 月とあるので、そ
の頃から「お大師山」と呼ばれるようになったと思われる。

お堂は、茅葺きで十畳の間二つぐらいの広さのご座敷で



あったが、今はない。 昭和 15 年頃までは、秋の彼岸に土地の人はお籠^{こもり}し、当屋
が茶口（お茶のつまみ）をつくってお祀りしていた。

また、年に一回は「お大師めぐり」といって、多くの人が巡拝されていたが、今は
あまり見かけない。また、北側の山裾には自然石に刻まれた「地神様」の碑があり、
部落の人は田畑の百姓作業をやめ、暦の社日の日に土神様である地神様を祀り、豊作
祈願をしていた。



②（森原神社）

※ 森原神社は森健樹氏宅北側に位置している。神社合祀政策により、日露戦後の 1906 年（明治 39 年）勅令第 220 号により、鶴坂神社への合祀を決定。

森家の株内は毎年、宮司を招いて甘酒祭りを執り行っている。昭和 31 年 12 月 16 日付けにて、安清地区の上側 4 軒（中島敏子・原田浩・小福田均・中島勇）では、甘酒祭りの祭典規約改正を行い、その内容を記録に残しているが、今は 1 軒のみで宮司を招いて執り行っている。森原神社の祭神は天照大神の第二子の「天穗日命」であり、農業神・稲穂の神として、信仰されている。



（森八幡神社）



（御寄神社）

※森八幡神社

森健樹氏宅上の山に位置している。
祭神は応神天皇 総本山は大分県の
宇佐神宮。天照大神に次ぐ皇室の守護
神 → 中世では武家と皇室の守護神。

「八幡」の読みは「ヤハタ」で「ハタ」とは「神」の寄り付く「ヨリシロ」としての「旗」を意味する。後に、神仏習合して、仏者の読み「ハチマン」の音読に転化した。

※御寄神社

森八幡神社と同じ敷地内に位置している。鶴坂神社に合祀されている。
由緒沿革不詳

福岡県北九州市若松区に御寄神社がある。伝説として

神様夫婦のうち男の神様が、日本一美しい遠見ヶ鼻の夕日に心を奪われ、それに嫉妬した女の神様の八つ当たりで事故が多発。夕日が見えないように、社を陸に向けて建立したらしい。

③ ※多佐荒神社（荒神様）

中島勇氏宅南西側の山地内に位置している。

荒神信仰は、和魂・荒魂^{にぎみたま あらみたま}を対照的に信仰した様子が記されている。民間伝承でも、温和に福德を保障する神として極めて崇めやすく、これの畏敬^{いけい}の誠を実現しないと危害や不幸にあらうと思われた類の神であった。

家や地域で祀られ、崇やすい荒ぶる性格とともに、祭祀者を庇護する強い力を持つ神である。

“荒神まつり”の日には甘酒を飲んでいた。この伝統は今も受け継がれている。

※荒神社・・・仏・法・僧の三宝を守護という神。宝冠を戴き三面六臂（さんめんろっぴ）怒りの相を示す。

（近世には、かまどの神として祀る荒神。祭神は三宝荒神）



多佐荒神社

※齋神社^{いづき}

多佐荒神社に並列して祀られている。

五穀をつかさどる神。食物の神。

祭神は保食命（うけもちのみこと）

※齋とは→歴史民俗用語

古く神に関連のある名詞について、「神聖な」「清浄な」の意を表す。身を清め神に仕えること。お齋（おとき）とは仏事・法事法要の際の会食をさし、香典のお返しの意味もあります。



齋神社

※津山市沼にも齋神社がある。

主祭神 稚日尊 天宇受売命 倭姫命

由緒沿革 崇神天皇の御代に勧請したという。本神社をイツキと称するのは、織部、勝部、祝部に縁の深い弓月の君、即ち融通王をその部族が奉祀したものであるからともいう。国司が総社を建立して以来、総社に神幸せられて奉幣に預かったという。森、松平侯の別邸が指呼の間にあって、崇敬も厚く、祭祀日に奉納があった。

④ ※若宮様（若宮神社）

中島敏子氏旧宅の北西に位置している。

一族の繁栄を願う守護神で若宮様と言われ

崇拝されてきた。



※参照

若宮神社

春日大社には61もの摂社、末社がある。そのうちのひとつ摂社・若宮神社の祭神・天押雲根命（あめのおしくもねのみこと）は、本社第三殿に祭られている天児屋根命（あめのこやねのみこと）の子神であるため若宮と呼ばれる。この祭神は困難を乗り越えて高天原から天の水を持ち帰ったことから水神・生命・知恵の神として信仰されている。

若宮神社は毎年12月に行われる例祭「おん祭」でよく知られている。大和路の1年の最後を締めくくり大和最大の豪華な祭で、師走の奈良の風物詩となっている。

※妙見様

（明見神社・妙泰様）

中島敏子氏宅の西側

（大きな椿の木の下）

※妙見様の信仰対象は北斗七星。星座の「座」を「くら」と呼んだことから、生馬の守り神ともされるようになりました。



妙見様の信仰とご利益

妙見様は、昔から国土擁護・豊年・酒造・計量・運勢・富貴寿命の守り本尊として、広く日本中に信仰され、今も全国各地に妙見という名のついた宮・寺・山・神社が無数にあります。

古い文章に出ている妙見様の事は、大江匡弼という学舎が書いた「北辰妙見菩薩霊応編」という書物に、北辰妙見は太一北辰尊星と云って諸々の星の上首で又天御中主尊国常立尊と申して神仙の始祖、菩薩中の最上、儒教では太一上帝・筮占の家では大極元神と尊崇しています。

我が国の朝廷では、毎年正月元旦、寅の一点に天使様が北辰尊星を御拝なされて、御燈を北辰に奉られた。日本中、皆、北辰尊星への御燈を神供して、天下泰平五穀成熟祈願成就、富貴万福如意吉祥を祈念したのは、妙見様が国土擁護・災害を滅し、国難を滅除することを誓願され、開いては北斗七星となり会わせては妙見菩薩となる。有名な京都・三井寺では尊星王と呼び北斗法と同一として最大妙法とされていた。又、東寺では妙見菩薩といって天災地変、その他、眼病等の平癒にこの法を修するので、即ち昔から佛としても神としても国民一般に徹底的信仰されるほど盛んなものであり、今も山中の孤村迄に点々と祭られて有ります。殊に有り難い縁起のある霊場は、秩父の大星神社（今の秩父神社）、周防の氷上山・星の宮、及び当・武州武蔵国百村の妙見様が、古くから日本三妙見といわれて有名です。江戸時代から今の東京都江東区柳島の妙見様も、白蛇とともにそれに次いで信仰されていたことは、皆様もご承知の通りであります。



⑤ ※貴船神社跡地（貴布祢神社・木舟神社）

故中島勝美氏古宅の西側に位置している。

桑上にある貴布祢神社は、倭文庄が上賀茂神社の荘園になった頃（平安時代）に上賀茂神社の摂社であった貴船神社を勧請したもので、この神社との関連ではと考えられる。

貴船神社

貴船神社は、京都府京都市左京区にある神社。式内社、二十二社の一社。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の別表神社。全国に約450社ある貴船神社の総本社である。地域名の貴船「きぶね」とは違い、水の神様であることから濁らず「きふね」という。



※愛宕神社

安清地内字経堂に位置している。



○全国に 900 社ある。

※祭神は火産靈命^{ほむすびみこと}で防火の神様である。

愛宕神社拡大の歴史

愛宕神社の発展は、仏教との習合が大きく作用している。それは、愛宕山が修験道の地として篤く信仰を受けた経緯からも説明でき、明治以前までは、愛宕神社ではなく、愛宕山白雲寺として、存在していたことから伺える。そして、何より火防の性質が、全国共通の受けたいご利益として非常に高い位置を占めていたことも予想される。それは、日本の家屋が木造建築で、非常に燃えやすい上、竈（かまど）という火を多用する文化であったことから、火の恵みと怖さの両方を知った文化圏であったことが深く関係している。

(1) 修験道との習合

愛宕山は、京都の西方の守護、とりわけ京の火難除け、盗難除けの神として信仰され、また、修験道七高山の一つとされ、修験道の地として非常に栄えた。その後、愛宕権現が、火防の神として、愛宕修験によって、全国に信仰が広まっていった。かつては、「伊勢へ七たび 熊野へ三たび 愛宕まいりば 月まいり」と呼びはやされていたという。

(2) 武家による信仰

本殿に祀られた將軍地蔵を本尊に祀ったことで、戦国時代には、武神としての側面でも武士にも浸透していった。

(3) 徳川家康の信仰

徳川家康が、江戸の守護のために、愛宕権現を信仰し、御分霊を勧請。それが、契機に、全国へ爆発的に広まっていった。

このように、火防としての側面が強調されることによって、愛宕神社は全国へ拡大していったと考えられている。

愛宕神社のご利益

火防守護

愛宕神社の基本ご利益と言えば、この火防守護は最大のもと言える。特に、これは日本に強く言えることだが、日本では、火防守護に対する信仰が特に強い。これは、一部には、日本の伝統的家屋が木造であるため、火災などが起きると壊滅的打撃を受けるその建築様式とも非常に深い関係があると類推することが出来る。それは、京の守護を火防という点で担っていたことから類推できる。そして、この火防には、火傷などの火にまつわる災難に対してもご利益があるとも言われる。

家内安全

これは、火防守護の拡大解釈とも言えなくもないが、やはり家屋の安定は、生活の安全とも言える。京都の飲食店や一般家庭の多くでは、厨房、台所にこの愛宕神社の火防の札を祀ることが広く一般的なこととなっている。それは、同様に、家内の安全を司るという点で、同様の意味と言うことも出来る。

⑥ 無縁墓石



中島敏子氏梅畑内（段の奥）
一升枧の大きさの墓石
（一笑増す・一生増す神社？）



中島敏子氏宅東側付近



原田浩氏所有地（安清奥）



森球一氏所有山地内
（高下峠）



※中世戦国時代の武士の墓石

安清地内の加治子山は、往古の古戦場であった。戦乱に明け暮れた美作の戦国史を代表する岩屋城を攻撃するための陣を設け戦略を練って戦っていた。（寄合場）
（1440年頃～1590年頃）

⑦ ※安清地区内の安全守護お札

毎年、7月に鶴坂神社にて夏祈禱で頂いたお札を安清地区の上・中・下の各所定の場所に貼り付け、安清地区の安全祈願を行っている。



安清上（中島敏子氏宅東）



安清中央（大師山）



安清下（原田泰氏宅東）

⑧ ※安清踏切

姫新線

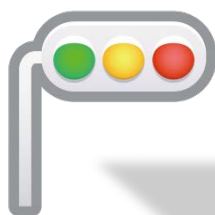
姫路駅から 102 キロ 052 メートル

坪井駅 ←→ 美作追分駅



安清入口

安清入口前の信号機
(国道181号線)
津山市で最も西の信号機



⑨ 杉井家屋敷跡地



昔、安清の入口付近に杉井慶四郎氏
所有の大きな屋敷があった。

今は国道 181 号線の敷地と牧原家の
畑となっている。

集乳所跡地



昔は、安清の農家も牛を多く飼っていた。
近所の他の地区にも酪農家だったが、時代の流れ
に押されて、今酪農家は一軒もない。

集乳所の少し東側（現在：中島千恵子氏宅）
の東側に **中島散髪屋** と **大田自転車屋** があった。

⑩ ※安清のパン焼き小屋

地区の女性を中心に、誰でも気軽に
使用しています。(人気バツグン！)
久米町時代に町の推進によって出来ました。



(パン焼き小屋)

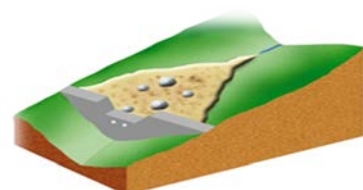
⑪ ※安清の砂防ダム (安清奥)



(砂防ダム)



・安清地内において、大昔に土砂災害があり
岡山県の災害対策のひとつとして、安清地区
に砂防ダムの建設が行われた。今でも土砂
災害時の小石等が水田・畑地に残っている。



⑫ ※安清水管橋

(市営上水道)

旧久米町時代に昭和 56 年度建設の大井簡易水道から、平成 17 年 (2005 年) 津山市に編入合併後津山市営上水道に切り替わって運営されている。姫新線踏切の下に水道管を通すことが困難だったため、久米川の上を水管橋で敷設したものである。



⑬※中国高速自動車道隧道

ボックス院庄 61

1974 年 (昭和 49 年) に開通

(美作 IC~落合 IC)

起点:吹田 JCT から 172Km
地点

※ ⑭旧安清部落水道配水池跡地及び炭焼き小屋跡地

昭和 56 年度に旧久米町営の大井簡易水道が完成するまでは、谷奥の安清川傍の水源からポリパイプを川沿いに敷設し、配水池として、この場所を使用していた。また、炭焼き小屋も設置されていた。現在の土地の所有者は森壮一氏である。



⑮ 原田屋敷跡地



原田家の屋敷跡地で、今は森艶子さんが畑として耕作しています。

原田家は美咲町原田の稲荷山城（原田城）の城主の子孫。稲荷山城は、平安時代の末から江戸時代の初めまで17代470年間の長い間存続した「中世の山城」である。昔はお正月には紋付袴で誕生寺まで互礼会に行っていたとのこと。



原田家（原田軍平）屋敷



1995年5月



2015年1月

かつて、安清に古老の原田軍平さんと云う方が住まわれていた屋敷です。元警察官で、剣道が上手で小学校等で子供達に剣道を教えていました。厳格な性格の中に優しさもあり、地域のお世話もよくやって、みなさんに親しまれていました。亡くなられてから廃屋となり現在に至っています。

⑩ 安清奥水田跡地



昭和の時代は、まだまだこの地は谷の水で稲作を行っていた。田植えは手間替えで、お互い近所の人同士助け合って、手植えで行っていた。時代の流れで、人手不足等により、山林等に地目変更することになった。

⑪ 染物紺屋跡地

昔は、この地で染物をやっていた。現在の土地所有者は、中島敏子さん。屋号も「たて通り」と云われるように、この地は隣り部落の福本の笠森神社から安清の貴船、そして、福田を通過して「たて通り」、六郎塚から原部落の明後塚へと道が繋がっており、人も多く住んでおった。通りには、屋敷跡や数ヶ所墓石も残っている。



紺屋とは、【読み：こうや】。染物屋のことで、紺屋、染屋などともいい、古くはこんかぎ、こうかきともいいました。そもそもは、藍瓶を据えつけて、糸や布を紺に染める職業を意味し、紅染の紅屋、紫染の紫師などと区別する目的で用いられた名称です。

⑱ ※福田奥の砂防ダム



⑲ ※^{たわ}凧ノ池



昭和の時代まで、地域の田植えが終わると、この池で朝方暗い内から部落の男衆が老若そろって釣りを楽しんだ。



2015/01/07

② 鶴西～福本～安清線のルート



② 鶴西～福本～安清線のルート



②① ※安清のとんど (此の三叉路付近)

毎年 1 月 14 日 地区内の有志が集まって



※安清の道作り



※桜の木・植樹 (大師山)



桜の苗木補充



満開・見ごろ

2011年4月3日

安清ふれあい祭り



七月

大師山にて



森健樹氏宅倉庫にて



秋まつり

10月15～16日



山車 (だんじり)



子供神輿 (こどもみこし)

安清に咲く四季の花

1 月



2 月



3 月



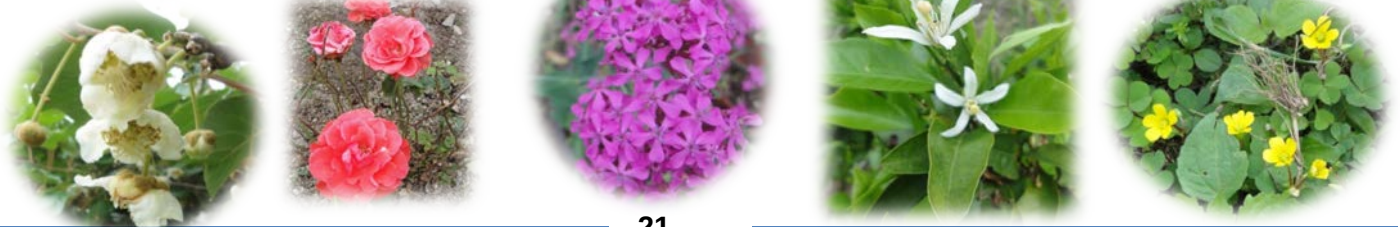
4 月



5 月



6 月



安清に咲く四季の花

7月



8月



9月



10月



11月



12月



安清地区防災地図



位置図



安清あっちこち散策位置図

- | | |
|---|---------------------|
| ① 大師山（阿弥陀如来像の堂跡地・81 番札所・石灯籠・地神様・桜・ふれあい広場） | ⑫ 水管橋（水道管） |
| ② 森原神社・森八幡神社・御寄神社 | ⑬ 中国自動車道隧道ボックス院庄 61 |
| ③ 多佐荒神社・斎神社 | ⑭ 炭焼き小屋跡地・部落水道配水池跡地 |
| ④ 若宮様・妙見様 | ⑮ 原田屋敷跡地 2 ヶ所 |
| ⑤ 貴船神社跡地・愛宕神社 | ⑯ 安清の水田跡地 |
| ⑥ 無縁墓石㊦・㊧・㊨・㊩ | ⑰ 染物紺屋跡地 |
| ⑦ 安清守り札㊪・㊫・㊬ | ⑱ 福田奥砂防ダム |
| ⑧ 安清入口・安清踏切・津山市最西の信号機 | ⑲ 峠ノ池 |
| ⑨ 杉井家屋敷跡地・集乳所跡地 | ⑳ 里山農道（現在市道） |
| ⑩ パン小屋 | ㉑ 安清のとんどまつり |
| ⑪ 砂防ダム（安清奥） | |



（久米の仙人）